

平成 2 8 年度第 6 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 8 年 7 月 2 0 日（水）	午前 9 時
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第6回定例会議事日程

- 1 日 時 平成28年7月20日(水)午前9時
- 2 場 所 八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室
- 3 会議に付すべき事件
 - 第1 第21号議案 八王子市奨学審議会委員の委嘱について
 - 第2 第22号議案 八王子市立学校教職員の説諭について
 - 第3 第23号議案 こども科学館展示物等制作業務委託契約の締結における議案の調製依頼に関する事務処理の報告について
- 4 報告事項
 - ・リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピックに出場する本市にゆかりのある選手について (スポーツ振興課)

その他報告

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	和 田 孝
委 員	星 山 麻 木
委 員	輿 水 かおり
委 員	村 松 直 和

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人

学校複合施設整備課長	内野茂樹
施設管理課長	松土和広
保健給食課長	野田明美
教育支援課長	穴井由美子
指導課長	中村東洋治
教職員課長	廣瀬和宏
統括指導主事	佐藤晴美
統括指導主事	斉藤郁央
生涯学習スポーツ部長	小柳悟
生涯学習政策課長	瀬尾和子
スポーツ振興課長	坂口崇文
スポーツ施設管理課長	佐藤晴久
学習支援課長	新井雅人
文化財課長	中正由紀
こども科学館長	叶清
図書館部長	伊比洋司
中央図書館長	中村照雄
生涯学習センター図書館長	新堀信晃
南大沢図書館長	村田浩三
川口図書館長	福田秀之
指導課指導主事	上野和広
教育支援課主査	岡部雅洋
教育総務課主査	堀川悟
教育総務課主事	廣瀬桃子
教育総務課嘱託員	古瀬村温美

【午前9時00分開会】

安間教育長 大変お待たせいたしました。本日の出席は5名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより平成28年度第6回定例会を開会いたします。

本市では地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会におきましても、照明の一部消灯や、職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

それでは、日程に入ります前に、本日の議事録署名員の指名をいたします。

本日の議事録署名員は、星山麻木委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

なお、議事日程中、第22号議案については、審議内容が個人情報に及ぶため、また第23号議案は、いまだ意思形成過程のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により、非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行をいたします。

日程第1、第21号議案 八王子市奨学審議会委員の委嘱についてを議題に供します。本案について、教育支援課から説明願います。

穴井教育支援課長 それでは、第21号議案、八王子市奨学審議会委員の委嘱について御説明いたします。詳細については、担当の岡部主査より説明いたします。

岡部教育支援課主査 それでは、第21号議案 八王子市奨学審議会委員の委嘱について御説明いたします。お手元にある議案の最後のページにございます第21号議案の関連資料をご覧いただきたいと思います。

平成28年7月31日に八王子市奨学審議会委員の委嘱が任期満了になることから、新たに8月1日から委嘱いたします委員候補者でございます。

まず、八王子市議会議員から選出をしております7名につきましては、継続という形でございます。次に、市立中学校長からは八王子市中学校長会から推薦をいた

だいた八王子市立いずみの森小中学校長、川島清美氏を候補者としております。次に、都立高等学校長につきましては、東京都立八王子拓真高等学校長、戸塚吉彦氏。次に、私立高等学校長につきましては、工学院大学附属高等学校長、平方邦行氏を候補者としております。次に、商工業関連団体を代表する者でございますが、八王子商工会議所会長に推薦をいただいた株式会社テージーケー代表取締役社長、清宮仁氏と株式会社ミナカミ代表取締役社長、水上浩司氏を候補者としてございます。最後に、市内中学校の生徒の保護者につきましては、八王子市立中学校PTA連合会から推薦をいただいた八王子市立中学校PTA連合会会長、後藤貴弓氏を候補者としてございます。

任期につきましては、平成28年8月1日から平成30年7月31日までの2年間でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。

安間教育長　　ただいま教育支援課からの説明は終わりました。本案について、御質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　それでは、本案についての御意見をお伺いいたします。何かございませうでしょうか。よろしゅうございませうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　それでは、御意見もないようでございますので、お諮りいたします。

ただいま議案となっております第21号議案につきましては、提案のとおり決定ということに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　御異議ないものと認めます。よって、第21号議案については、そのように決定することにいたしました。

続いてスポーツ振興課から報告を願います。

リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピックに出場する本市にゆかりのある選手について、御報告願います。

坂口スポーツ振興課長　　それでは、リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピックに出場する本市にゆかりのある選手について御報告いたします。

8月5日から始まりますリオデジャネイロオリンピックには6名の選手が出場します。残念ながら、同じくリオデジャネイロのパラリンピックに出場する選手はおりません。このリオデジャネイロオリンピックに出場する本市にゆかりのある6名の選手を激励し、また市民に周知することでスポーツに対する関心を高め、その普及と発展を目指すものでございます。

それでは、出場者について御説明いたします。お手元の資料の2、対象者の表をご覧ください。八王子市出身者と本市の出身者ではありませんが、在住、在勤、在学している選手に分けております。本市出身者は、柔道で2名、サッカー、セーリングで各1名の合計4名となります。

柔道の中村美里選手は、北京オリンピックで銅メダルを獲得し、ロンドンオリンピックでは初戦敗退でしたが、今回でオリンピック3回目の出場となります。同じくセーリングの吉田愛選手も、北京、ロンドンに続き3回目の出場となります。柔道の田代未来選手、サッカーの中島翔哉選手は、今回が初出場となります。

在住、在学の選手は、水泳で法政大学4年生の青木智美選手が初出場、また本市在住でレスリングの高谷惣亮選手がロンドンに続き2回目の出場となります。

3、激励・周知方法につきましては、懸垂幕と横断幕を作成し、JR八王子駅の北口と南口ビル、また市役所本庁舎内などに掲出します。JR八王子駅の北口と南口のビルには、昨日より懸垂幕を掲出しております。今後、各選手の地元町会との調整などにより、地元の最寄りの駅や出身校などに横断幕等を掲出してまいります。

また、8月1日号の広報「はちおうじ」やホームページにも掲載していきます。

4、懸垂幕等の掲出期間でございますが、リオデジャネイロオリンピックが終了する8月21日までとしております。

報告は以上です。

安間教育長　　ただいま報告が終わりました。本件について、御質疑はございませんか。

和田委員　　ぜひ頑張ってきてほしいなというふうな思いでいます。

こうしたことについて全く予算が書かれていないのですが、かなりお金がかかる物なのかということなのです。

というのは八王子の駅前を、こういうふうに応援幕を作っていくわけですけれども、例えば京王八王子とか西八王子だとか高尾だとか、そういう八王子の市内にあ

る駅だとか、そういうところに対して大きな物は無理だとしても、もう少しいろいろなやり方があるのではないかと思うのですが、1カ所だけやっているような印象があるのですけれども、予算がかかるのであれば、もちろん制限する必要はあると思うのですが、できるだけ広げていくような、そういう取り組みというのは行えないものなのかなというのが感想なのです。

坂口スポーツ振興課長 横断幕を掲出する駅につきましては、JR八王子駅のほかにJR高尾駅北口に2カ所、また京王線の南大沢駅、めじろ台駅、堀之内駅の各駅で調整に入っております。

予算につきましては、横断幕の作成は自前で行っておりますので、布代とインク代という形になっております。ただしセレオさんに掲げている懸垂幕につきましてはサイズが大きい物ですので、こちらにつきましては都市戦略課で委託で作成しております。

以上です。

和田委員 京王相模線のほうが少し抜けていて申し訳なかったのですけれども、選ばれた駅があるわけですが、選ばれない駅と選ばれる駅というのは何かあるのですか、乗降客の数とか、そういうふうな関係でしょうか。

坂口スポーツ振興課長 基本的に、出場する選手の地元に近い最寄り駅に設置するという考えでおります。

以上です。

安間教育長 よろしゅうございますか。

星山委員 たしか先日、上壱分方に行ったときに、小学校の行ったところに選手の顔写真が掲げてあって、特に出身校の子どもたちは、とてもうれしいことではないかなと思うのです。記憶違いでなければ、たしか訪ねてくださったと聞いたような気もしたのですけれども、何か地元の子もたちとの取り組みとかでプランがあったり、こんなことがありましたとかがあったら教えていただけますか。

坂口スポーツ振興課長 今お話にありました上壱分方小学校につきましては、柔道の田代未来選手が卒業しておりまして、こちらのほうには1回、学校のほうにお見えになったという話を聞いております。現在、オリンピックが終わった後に、学校が直接選手と交渉をして学校訪問をしていただくような調整をしたいという形になっ

ております。今現在、オリンピック前につきましては、余りそういった活動はできない状況になっております。

以上です。

安間教育長　ほかにございますか。

先日、給食のときにメッセージをいただいて、子どもたちがすごく喜んでおりましたので、ぜひこういった取り組みとは別に、学校の子どもたちに対する取り組みも、進めてください。

ほかに御質疑は、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　ほかに、何か報告する事項等はございますか。

廣瀬学校教育部長　指導課より報告がございませう。

安間教育長　それでは、報告を願います。

佐藤統括指導主事　私から、第1回中学生サミットについて御報告いたします。

今年度から中学生サミットを実施いたします。目的及び内容につきましては、中学校校長会と協議したものでございます。第1回中学生サミットは8月3日、水曜日、午後1時半から教育センター大会議室及び研修室にて開催いたします。

目的といたしましては、生徒自身が主体的に問題を解決していこうとする能力を養う。各校の自治活動の活性化を図る。よりよい学校、そしてよりよいまち八王子にしていこうとする姿勢を醸成することを目的としております。

議題は、「生徒自らがいじめについて考え、いじめ防止に向けた行動指針を検討する」でございます。各中学校代表2名の生徒が参加いたします。いじめ防止に向けた各校の取り組みの情報共有及び自分たちに何ができるか協議し、いじめ防止に向けた行動指針を検討するものでございます。

なお、今回話し合われた中学生の意見につきましては、本市のいじめ防止にかかわる条例やいじめ防止基本方針の見直しの参考とするものでございます。併せまして、市立小・中学校とも連携して、いじめ防止に向けた取り組みを行ってまいります。委員の皆様におかれましても御多用の中とは存じますが、御参加いただけたらと思います。

以上でございます。

安間教育長　　ただいま指導課からの報告は終わりました。本件について、御質疑はございませんか。

和田委員　　とてもいい取り組みだというふうに思います。

少し質問なのですがすけれども、ブロック会と全体会の進め方というのをお聞きしたいのですが、ブロック会では情報交換というふうになっていて、案を策定していく。全体会では発表、発表、検討となっているのですがすけれども、子ども同士が意見交換を、パネルディスカッションというのは難しいかもしれないのですが、何かブロック会での話し合いをただ発表するだけのような全体会になっているのか、もう少し全体会の中でも広い立場でいろいろな意見を交換できるような会になっているのか、ブロック会と全体会の進め方を少しお話しいただければと。

安間教育長　　もう少し具体的なイメージができるように説明ください。

佐藤統括指導主事　　ブロック会では各ブロックに、1回目ということもございまして、指導主事が進行役を務めます。ブロック会では各校のいじめ防止に向けた取り組みを情報共有する。その中で、自分たちの学校にも取り入れられるものがないかなどを、さらに詳しく聞くこととなります。その後、いじめ防止に向けた行動指針をブロックごとに、こういうことができるのではないかとということを検討します。

全体会では、特色ある取り組みとかブロックで考えた行動指針について発表いたしますが、その後、八王子市全体として中学生、また小学生にも、こういうことができるのではないかとということを意見交換し、最終的に一つの行動指針をつくるものでございます。

和田委員　　ブロック会の中で行動指針をつくるということなのですがすけれども、なかなか大人であっても意見を集約するというのが難しいというか、いろいろな意見が出てきて集約しにくいのですが、何か進め方とか意見を集約するという方法について工夫されていることや、指導主事さんが指導の中で、こういう進め方をしようというのがあったら説明いただけると、もう少しイメージできると思います。

佐藤統括指導主事　　この会に向けまして今、各校の代表生徒、または生徒会本部役員が、まず学校の中でいじめの取り組みについて整理をしております。さらには、自分たち自身がどういうことができるか、いじめをなくすためにどういうことができ

るかということを検討し、資料を作成し、事前に提出していただくことになっております。それをもとに進めていくことになっております。

輿水委員 中学生サミット第1回ということで、子どもたち、生徒自身が自分たちの問題としてこれに取り組むというのは大変意義深いものがあると思うので、スタートにつまずかせたくないというのがあるからといって、おぜん立てをし過ぎて、何か決められた枠の中で決められたことを言って、ただ終わりましたにたくないという思いもあります。

主役は、やはり自分なのだというふうな思いを参加者に持たせるというテーマが何か欲しいなど。そのためには、それぞれの学校で検討してきたものをそのまま出して、ただ言って報告してではなくて、何かブロック会、または全体会の中で生み出されるもの、自分たちがやってきたことを集約し、それをお互いに交流することによって何かが生み出されるというふうな、そういう思いを持たせたいと思います。

そのためには、推進役というか司会役の指導主事の先生方は大変だろうとは思いますが、ルールの上を走るようなサミットにはしたくないなというのがあります。一応、それが大きくは一つです。

佐藤統括指導主事 輿水委員、ありがとうございます。

やはり中学生自身が主体的にということところが、大切なところとっております。そして今後、学校に戻ったときに自分たちで、またさらに行動が強化されるような、活性化されるような状況になりたいと思っております。

今、校長会とも連絡をとりながら、各校の生徒会の状況なども様子を見させていただき、例えば直接学校に行き、生徒会の役員と少し意見交換をして、「そういうことを考えているのだったら、ぜひ発表しては」というようなことも事前に伝えているところでございます。

輿水委員 そういう事前の耕しというのがすごく大事だろうというふうに思います。ぜひ、そうしていただきたい。

もう一つは、出てくるのは生徒会役員だとか、ある程度学校の代表として自分の意見を持って話せるお子さんたちだろうとは思っているので、そう考えると15歳、14歳、この時期でどれぐらいの協議能力があるのかということをしっかり見てほしい

と思うのです。18歳に選挙権が移ってきて、子どもたちの、そういう自分たちの生活をつくり出すというエネルギーを引き出す。そのために学校ではパネルディスカッションも経験していますし、それからディベートも経験していますし、そういう学習経験があるということ踏まえた上で、ぜひ子どもたちに、さらにその次を目指すような意見を自分たちで言って、そのことが行動に結びついて実現していくのだという実感を、ぜひ、ここで一つ経験させられたら素晴らしいなと思いますので、大変でしょうけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

村松委員　とてもいい取り組みを考えてくださったなと思って感謝します。

　　サミットが終わった後、何か冊子にしたりして、中学校の全校に配るだとか、何かそういうことは今のところ考えていらっしゃるのでしょうか。

佐藤統括指導主事　ありがとうございます。

　　今現在考えているのは、このときに話し合われた行動指針等については全校に、何らかの形で掲示できる物を提供しようと考えております。話し合われた過程等については今後、またどのように学校に還元していくかを検討したいと思います。

村松委員　　というのも、いじめは子どもたちが当事者であって、考えなければいけないというのもそうなのですけれども、中には保護者もいろいろと関わっていることがあると思うのです。いじめが発展して保護者同士の争いもありますので、サミットが終わった後に親にも啓発のできるような形で、文章や冊子みたいなものも残していただければなというのがありますが。

　　とりあえず成功させていただくには下調べ、下準備というのが大事だと思いますので、まだ時間がありますので、子どもたちと意見交換していただければと思います。

星山委員　　参考になるかわからないですが、私も大学生サミットみたいな感じで授業をやっているわけなのですけれども、難しいなと思うのは、中学生は当事者で、大学生になると当事者ではないので、本当のことが言えるのだなといつも思うのです。本当のことというところに、なるほどなと思うことがあったので、少し参考になればという程度なのですが。

　　一番私が思うのは、当事者が助けてが言えないのです。いじめられているときに当事者が助けてと言えれば、かなり改善できるのに、文章を読むといじめられている

自分を知られたくないプライドというのが物すごく強くあって、それがいじめを拡大させてしまうのですけれども、すごく心理的な問題なのです。そのところが、中学生ってどう考えているのかなと知りたいし、そこが自分に向き合えると、少し深まるかなという気がしました。

それと、私がいつも大学生に投げかけているのは、どうしてあの時いじめてしまったのか、どうして自分は傍観者になってしまったのかという投げかけも結構有効で、いじめてしまう自分というのはいらいらしていた、家で怒られた、家で面白くないことがあった、先生からも認められないという自分の中の負の感情みたいなものがある、それがいじめられている子が悪いわけではないのだが、たまたまそこにぶつけてしまった弱い自分みたいなもの、気が付いていかないといじめる側の子どもというのなかなか解決できないのだな、これは大学生の文章なのですけれども、その2点がとても大事なのかなと理解しているところです。

あともう一つ、さっきの大学生になって初めて言えるというところで、中学生には難しいかなと思うのですが、逆に先生や親が入っていないので、私は、彼らは、親御さんや先生に対して何か言いたい、感じていることがあるのではないかなと。つまり子どもが悪くて、子ども同士でいじめをしている、子どもで解決せよというのは大変難しいことであって、ある意味大人の社会の価値観の投影だとすれば、彼らのほうが見えていることがあるのではないかな。

例えば、前にお話ししたみたいに、強い者が弱い者を見下すルールとか、違っているものに関して排斥していいという雰囲気や大人のほうが出してしまえば、当然子どもはそれに反応してくるわけで、そういうのって子どもは結構感じているなと思うので、そのところなんかも、逆にこちらからのお願い、お父さんやお母さんや先生に対して、こういうところをもう少しこういうふうにしてもらったら、なんていう視点も出てくると、発信するときに伝わりやすいのではないかなという気がするので、その辺のところ。

第1回の試み、私もとてもいいと思うのです。当事者が当事者で考えていく。サポートして、筋書きがあって言わされているのだよねというのではなくて、本当になるほどね、こういうところで大人も気をつけていかなければいけないね、子どもたちを支えていけたらいいねという、そういうサミットになったらいいなと思って

います。よろしくをお願いします。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかにございますでしょうか。

第1回ということなので、中学生サミットの取り組みを継続させて、よりよいものというような御意見を一方でいただきましたので、事務局のほうしっかり次年度以降のことも考えてください。また同時に中身の話、いじめの問題につきましてはどの委員からも、言葉は悪いですがけれども、はやりすたりで取り組む問題ではないのだろうと、我々5人で協働して、いじめ問題に対しては真剣に取り組んでいくというような決心をお伝えしておきますので、ぜひそういうことを踏まえた施策を、これから立案をしていってください。よろしくをお願いします。

それでは、これで公開の審議は終わりますが、委員の方々から何かございますでしょうか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、ここで暫時休憩にいたします。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退席をお願いいたします。

再開は35分でよろしゅうございますか。

〔午前9時30分休憩〕